

## (2) 不登校について考える 6つのポイント

### ③ 要因を**取り除けば登校**できるか？

不登校児童生徒に不登校の要因を尋ねても「よく分からない」という回答が多いです。実際に不登校の相談をしていると、もともと要因と考えられていたことは、**きっかけにすぎない**場合が多く見られます。たとえ要因と思われるものを解決しても、新たな要因が浮上するといった具合で、不登校がまったく改善していかないこともあります。

人は生きていく上で、様々なストレスに遭遇します。スポーツをしたり、読書をしたり、美味しい物を食べたり、家族や仲間と楽しい時間を過ごしたり、信頼できる人に愚痴をこぼしたりして、人はそのストレスを解消していきます。一方、**解消できないストレスは心の中に蓄積**されていきます。その蓄積が危険水位まで達したとき、「考えられる要因」がきっかけとなって不登校という症状が表れたとみるとよいでしょう。

このように要因（ストレス）は複雑に幾層にも絡み合っており、**不登校を解決するには、絡み合った糸が切れないように、慎重に丁寧にほどこ作業が必要**です。特に、生活上のストレスが複雑化する**思春期（10歳～）以降では不登校の解決に時間がかかる**のはこのためです。

不登校がどのように始まり経過していったのかの視点をもつこと、今の状態だけを見るだけではなく、**その子の背景も加味することで、現状理解の総合的な判断、支援につながります。**

#### “浜松市の不登校タイミング3”

4月・5月・・・9月・・・12月・・・

1

2

3

夏休み明け。生活リズムの乱れや宿題のつまずきが多い。

不登校経験群はGW明けに再燃が多い。  
4月にがんばり、息切れが……。  
登校できている間に、認め、励ましが必要。

リーダー群の燃え尽きが目立つ。  
学校行事等でリーダーとしての悩みを抱えるケースが目立つ。